

学校教育推進室だより

東大阪市教育委員会 学校教育推進室 平成 27 年 1 月 9 日
〒577-8521 東大阪市荒本北一丁目 1 番 1 号 TEL06-4309-3268~9

- 東大阪市学校教育基本目標
すべての子どもに生きる喜びとあすをつくる力を
- 東大阪市学校教育重点目標
 - 総合的視点に立つ教育の推進
 - 人間尊重に徹した人権教育の実践
 - 信頼に応える学校園経営
 - 学校園・家庭・地域の協働

ものづくり体験教室

ものづくり体験教室は、「次世代を担う子どもたちに、ものづくりの啓発を推進する」を目標とし、東大阪市経済部モノづくり支援室・東大阪地域活性化支援機構(NPO 東大阪)に事業委託しています。地域の民間企業から講師を招き、平成 14 年度より希望小学校を対象に実施しており、今年度は、12 講座の開設となりました。

各学校からたくさんの応募があり、総数は 38 校 8,176 人となりました。応募多数の講座もみられ、一部希望通り実施できなかった学校もありましたが、今年度行われた「ものづくり体験教室」を紹介させていただきます。



今年度の実施講座 <全 12 講座>

- ワイヤーアート
- ひな人形工作
- 紙すき
- 紙袋製作
- 磁石
- ねじ
- エコ製品
- めっき・ダーツ
- グッズ工作
- ねじの仕組み
- 工具
- 鉄工所と町おこし

ものづくり体験教室のはじめに、「ものづくりのまち東大阪」についてのお話を、地域の民間企業の講師の方よりいただいています。

<工具体験教室>・・・池島小学校



株式会社ロボテックスの方を講師にお迎えしました。まずは、講師の方から、工具の使い方等を学びました。その後、自分たちで精密ねじを締めたり、ニッパで線を切ったり、圧着工具で端末を付けたりし、マスコット作成を体験しました。また、当日は市長が視察に来られました。



<エコ製品体験教室>・・・大蓮小学校



株式会社アドバンスの方を講師にお迎えし、液体や粉末のエコ洗剤を一定量にセットした後、ペットボトルでエコ洗剤の水溶液をつくりました。

<めっき・ダーツ体験教室>・・・英田北小学校



日清工業株式会社の方を講師にお迎えし、めっきの作業の体験やダーツの製造方法等を学習した後、ダーツゲームを体験しました。

通学路強調シートと巻看板の施工が始まっています。

東大阪市では通学路の安全対策として、教育委員会・道路整備課・交通対策室と3警察署(布施・河内・枚岡)が連携して『通学路安全対策事業』をすすめています。この事業には、地域やドライバーに啓発を行う「通学路路面標示(強調シート)」と通学路のフェンスや電柱に設置して啓発を行う「巻看板」があります。これらの施工が、平成26年12月中旬より始まっています。「通学路路面標示(強調シート)」は市立全小学校区内の各5ヶ所程度に平成26~27年度の2年間で施工完了の予定、また「巻看板」は平成26年度末までに市立全小学校区内の各10ヶ所程度に設置の予定です。これらのデザインは、昨年度東大阪市立中学生・日新高校生から募集し、優秀作品に選ばれたものです。この「通学路路面標示(強調シート)」と「巻看板」の取り組みは東大阪市独自のものです、新聞や東大阪市ケーブルテレビなどでも報道されました。



これからも、さらなる安心・安全な通学路のための取組みを推進していきます。



中河内地区三市(東大阪市・八尾市・柏原市)による授業改革実践交流会



12月24日(水)、中河内地区三市合同の授業改革実践交流会(指導方法の工夫改善<少人数指導>部会)が八尾市役所内会議室で開催されました。習熟度別指導をはじめ、きめ細かな指導に取り組んでいる学校の実践を交流することにより、授業改革の一層の推進と充実を図るとともに、新しい指導方法のあり方について研究討議する場として、毎年、三市合同で行っているものです。各市からそれぞれ実践報告が行われ、本市からは、小阪中学校より

報告がありました。後半は、大阪府教育センター指導主事 高谷陽子さんから「少人数指導をいかした授業づくり～言語活動をとおして～」をテーマとしてご講演いただきました。

<教職員の感想(アンケートより)>

- ・子どもの理解を促すためには、様々な仕掛けや工夫が必要なおわかりました。自分自身も日々授業改善に努めているつもりですが、まだまだ足りないと感じ返ることができました。一方、きちんと手立てを打てば、子どもの力につながるという見通しも持てました。
- ・少人数でどのような取組みをすべきなのか、模索しながらの日々でしたが、具体的な取組みや工夫などがとてもわかりやすく、明日からいかに活かせるものばかりでした。

【東大阪市立小阪中学校による実践報告】



国語科における習熟度別少人数授業の指導方法について、「読む」「書く」の観点に基づいたクラス編成や、生徒を「書く」ことに慣れさせる授業の工夫など、具体的な指導を交えた報告がありました。

特に、「書く」ことに重点を置いた取組みは、参加者の興味を引きました。発展クラスでは、細やかな指導や説明を加えながら長文を読んで理解する課題に取り組むことで、実践的な力を育み、基礎クラスでは、生徒たちにとって馴染み深い「昔話」や「童話」などを要約する活動を継続的に行うことで、少しずつ書くことに慣れていくといった、それぞれ工夫された取組みです。生徒の学習意欲を高め、苦手分野を克服していく工夫として参加者にとって大いに参考となりました。

